

2016年3月13日(日)
バードウォッチング入門⑫
 ～衣替えした鳥たち～

春先は気温の変動が大きく、冬と春が混じったような気候ですが、鳥たちの世界はきちんと春が訪れています。春になると変化することといえば鳴き声や体(羽)の色などがありますが、今回のバードウォッチング入門では色が変わる鳥にスポットを当てて、変化する仕組みや理由などを学びました。



17名の参加がありました。レクチャーではそれぞれの鳥の説明とともに、色が変わる理由や仕組みも説明しました。



観察ホールから探しますが、モニターに映せる範囲には対象の鳥が少なめ。しかも館内が混雑していたため、すぐに野外に出発しました。



野外ではまず玄関前で淡水池の鳥を観察します。ここにはたくさんのカモに混じってカワウとカイツブリがいつもいるのです。



カワウをスコープで見ると、頭と脚の付け根が白い繁殖羽がきれいな個体でした。カワウは黒いというイメージとはかなり違います。



カイツブリは顔の赤茶色が薄い夏羽に換羽中の個体と、濃い赤茶色の夏羽個体が同時に見られました。



ヨシ原の西側は前週のヨシ焼きですっかり焼け野原に。



土路石川の河口に到着しましたが、目的の鳥がいない！



そこで堤防沿いに海のほうへ移動します。初めてのルートです。



東側の堤防まで来ました。ここから山口湾を見ると・・・。



ハジロカイツブリ冬羽



カンムリカイツブリ冬羽

目的の鳥はいました。カイツブリ類のハジロカイツブリとカンムリカイツブリです。鮮やかな夏羽個体を期待しましたが、白っぽい冬羽個体が多く、しかもみんなはるか彼方。厳しい条件でした。



戻る途中の近くのヨシにオオジュリンが群れていました。



その中には頭が黒くなりかけた個体も。これは羽の先端が擦り切れた変化です。

対象の鳥はそれなりにいましたが、あまり詳しく観察できなかったのが残念でした。繁殖期が近いこの時期は変化の途中のことが多く、これからさらに鮮やかになっていきます。